

# ナシヒポキシロン幹腐病に対する材質腐朽部位の除去効果

## 1 情報・成果の内容

### (1) 背景・目的

本県においては、‘新甘泉’を中心にナシヒポキシロン幹腐病による発芽不良や早期紅葉・落葉といった被害が確認されているが（図1）、その防除対策に関する提案はなされていない。そこで、罹病樹における腐朽部除去の効果について検討した。



図1 ‘新甘泉’におけるヒポキシロン幹腐病による被害

### (2) 情報・成果の要約

1) 本病は、材質腐朽部位を早期に除去することで治療が可能である。

## 2 試験成果の概要

(1) 4年生‘新甘泉’の主幹部にヒポキシロン幹腐病菌2菌株を接種し、病徴を再現した。接種の約3か月後（7月）、主幹を水平方向に剪除して材質腐朽部を完全に除去した（図2）。

(2) 剪除後に伸長した新梢を2年間調査した結果、本病の症状は認められず、接種区の新梢長は無接種区のそれと同程度であった（図3）。



図2 主幹内の材質腐朽部（左、矢印）と剪除処理（中央、右）

①に含まれる材質腐朽部を除去することで②は健全樹となる。

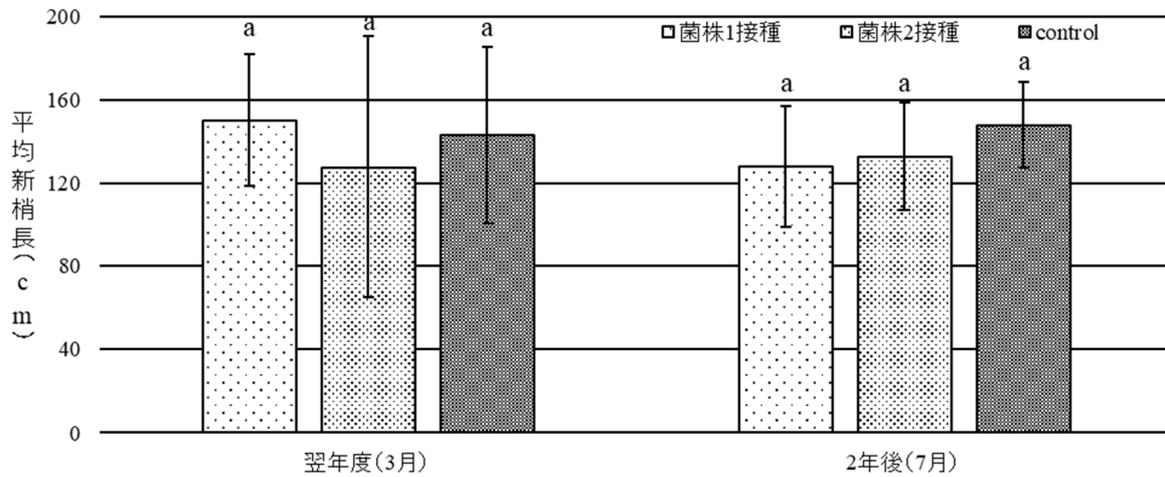


図3 接種樹と無接種樹における新梢長の比較

各区2~3反復で実施し、4新梢/反復を調査した。エラーバーは標準偏差 (SD) を示し、異符号間には Tukey-Kramer 法による多重比較において5%水準の有意差があることを示す。

### 3 利用上の留意点

- (1) 材質腐朽が樹幹内に残存した場合は、治療効果が得られない可能性がある。
- (2) ニホンナシに被害を及ぼす材質腐朽菌のうち、ヒポキシロン幹腐病で検討した結果である。

### 4 試験担当者

( 環境研究室 研 究 員 山田 高之  
 環境研究室 室 長 米村 善栄 )